

市 政 報 告

最近の市政について報告いたします。

○ 令和8年度の予算編成方針について

我が国の経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、緩やかな回復が期待される一方で、米国の通商政策の影響などによる海外景気の下振れが、国内景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響にも十分注意を払う必要があります。

地方財政については、令和7年度地方財政計画の水準を下回らない一般財源総額が確保される見込みですが、歳出全般にわたり施策の優先順位を洗い直し、予算の中身を大胆に重点化する方針が示されており、今後の国の動向を十分注視する必要があります。

本市の財政状況については、令和6年度一般会計決算の実質収支が約6億9,118万円、財政調整基金の取崩額を含めた実質単年度収支は約2億9,569万円と、いずれも黒字となりました。歳入では、国の経済対策として行われた定額減税の影響により市税が3.78%減少したものの、7月の豪雨災害への特別交付税の算定を含め、地方交付税は1.32%増加し、「ふるさと納税」の寄付額も3.28%増加しております。

歳出では、人件費、扶助費、公債費などの義務的経費が5.95%増加しておりますが、財政の健全性を示す各指標はいずれも早期健全化判断基準を下回っており、市債残高も徐々に減少していることから、財政の健全性は保たれております。一方で、義務的経費比率及び經常収支比率が上昇していることから、住民サービスや災害対応など社会情勢の変化に対応する施策を実施するため、弾

力的な財政構造への転換が課題となっております。

今後の財政見通しは、歳入では、物価上昇等による地域経済への影響が懸念され、市税収入の見通しは依然として不透明なほか、令和7年度国勢調査の人口が基準財政需要額に反映されることにより、今後、普通交付税は減少していくものと見込まれます。一方、歳出では、障がい福祉サービス費などの扶助費や職員人件費が更に増加することが予測されるほか、物価高騰や労務費単価の上昇、行政事務のデジタル化などに伴い、歳出総額は増加傾向にあり、今後、更なる需要が見込まれます。加えて、近年、頻発化する自然災害への備えなど、複雑化する課題に対応する必要があります。

これらを踏まえ、令和8年度の予算編成においては、施策の優先順位を洗い直し、限られた財源、人材、時間といった行政資源の最適化を図ります。令和8年度は、第2次総合発展計画後期基本計画および第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度となることから、令和9年度からの次期計画を視野に入れ、施策の成果・効果を再検証するとともに、目標指標の達成に向けた取り組みを着実に進めて参ります。これまでの市制20年の歩みを振り返り、次の20年へのスタートの年として、礎を築く予算を編成いたします。

○ にかほ市物産展の開催について

11月1日、姉妹地である台東区浅草馬道地区の浅草神社境内地において「にかほ市物産展」を開催しました。

今年も市内4事業者が市の特産品などを販売し、多くの来場者が商品を手に取りながら楽しむ様子が見られました。

今回は、超神ネイガーとなまはげも登場し、写真撮影の列ができるなど、会場は大いに盛り上がりました。

外国人観光客や七五三の参拝に訪れた家族連れなど、多くの方で賑わい、地元の皆様からも開催を喜ぶ声を多数いただきました。

○ にかほ市ふるさと会の開催について

11月2日、「第15回にかほ市ふるさと会」が、台東区の総合宴会場オーラム

で開催され、会員や市関係者を含め 140 人が集いました。

会場では、「にかほ この 1 年」のビデオ上映や、ふるさとの特産品の抽選会などが行われ、懇親会では同窓生や同郷の方々が再会を喜び合い、近況報告やふるさとへの熱い思いを語りながら親交を深め、盛会裡に終了しました。

○ 国際交流事業について

姉妹都市である米国オクラホマ州ショウニー市との交流 35 周年を記念し、中学生 10 人と引率 3 人および大人の訪問団 3 人の計 16 人が、10 月 22 日から 29 日の日程でショウニー市を訪問し、大変心温まる歓迎を受けております。

中学生訪問団は、仁賀保中学校、象潟中学校、秋田南高等学校中等部の生徒で構成され、学校訪問や市内の施設見学を通じて、ショウニー市の歴史を学ぶなど、積極的な交流を行いました。そして、5 泊のホームステイを通じて異文化交流を深め、全員元気に帰国しております。

11 月 28 日に予定されている報告会では、団員一人ひとりが滞在中の出来事や交流・体験を通じて得たこと、今後の生活への活かし方などを発表する予定であり、ひとまわり成長した姿が見られることを楽しみにしております。

○ 移住・定住の促進について

9 月 20 日と 21 日、東京国際フォーラムで「ふるさと回帰フェア」が開催され、本市ブースでは計 21 組から相談を受けました。

また、10 月 18 日には、県主催の「あきた移住・交流フェア」が世田谷区で開催され、9 組から相談を受けております。イベント後には、相談者と電話やメール、オンライン等で連絡を取り合い、移住体験ツアーやお試し体験住宅を紹介するなど、本市への訪問につながるよう努めております。

今年度は、移住体験ツアーに 14 組 22 名が参加したほか、お試し体験住宅を 16 組 28 名が利用されるなど、本市への移住に関心が高まっております。

今後も首都圏で開かれるイベントには、積極的に相談ブースを出展し、移住支援制度や子育て支援策の PR を通じて、移住定住の促進に取り組んで参ります。

○ 敬老式及び金婚式について

9月末から10月上旬の4日間にわたり開催した敬老式には642名が参加し、参加率は11.8%と前年度より若干減少しましたが、久しぶりの交流や余興を楽しんでいただきました。

また金婚式は9月24日に開催し、申し込まれた11組のご夫婦に、金婚祝状を贈呈しております。

○ 総合福祉交流センター改修工事について

総合福祉交流センター「スマイル」では、長寿命化改修工事、こども家庭センター事務室等整備工事、照明LED化改修工事の3件を同時施工しております。

工事期間中は、外壁タイルの剥ぎ取り等による騒音の影響に配慮し、コンベンションホール等は使用を制限しているほか、閉館時間を通常の午後9時から午後6時に前倒ししております。

「教育支援センターぱすてる」および「児童発達支援・放課後等デイサービスぱれっと」を利用される児童、生徒の皆さんには、防音に配慮した部屋の提供に努めて参ります。

ご来館の際は、出入口の制限などでご不便をおかけするほか、スマイル周辺においても騒音等でご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

○ 農産物の状況について

今年の稲作の状況は、8月上旬まで雨量が例年に比べ極端に少なく、収量や品質への影響が懸念されましたが、その後のまとまった降雨により、例年通りの稲刈りとなりました。

「作況指数」については、今年6月に廃止の方針が示され、それに伴い新たに「作況単収指数」が導入されました。この指標は、直近5年間のうち最も収穫量が多かった年と少なかった年を除いた3年間の平均と比較して算出されるものです。

また、これまで算定に使用されていた「ふるい目幅」は1.70mmでしたが、秋田県では生産者の使用割合が最も多い1.90mmを採用しています。

9月25日現在の作況単収指数は103、反収は559kg、前年比101%となっています。

10月末現在、にかほ市管内のJA集出荷数量は、昨年同期比で約700トン多い約5,700トンとなっております。

県内の一等米比率は、9月26日現在で96.8%と、昨年同期を2.1ポイント上回っており、10月末現在の本市の状況は、97.5%となっております。

米価については、上昇傾向が続いており、JA秋田しんせいによる概算金は、主力の「ひとめぼれ」で、昨年より9,280円高い、一等米60kg当たり26,650円となっており、さらに追加払いも予定されています。

野菜や花きについては、8月以降の度重なる大雨等の影響により、一部で農地や農作物に被害が発生しています。県では昨年度に続き、農地および農家経営の復旧支援事業を発表しており、本市においてもこれに対応する補正予算案を今定例会に提出しております。

○ ツキノワグマの出没状況について

本年4月1日から11月17日までの本市での目撃情報は127件で、捕獲駆除数は31頭となっております。

今年度は県内各地で目撃件数が前年を大きく上回り、人身被害も相次いでおり、本市においても、人の生活圏に出没することが多くなっていることから、今後も市民への速やかな情報提供を継続するとともに、人身被害防止に向けて、罠の設置による対応を進めて参ります。

また、市ではクマを集落等に寄せ付けないための対策として、自治会によるカキヤクリの木の伐採に対し、経費の一部を支援しております。

○ 冬季の道路除雪について

12月1日から始まる冬期間の道路除雪体制について、11月20日に委託業者等との除雪会議を開催し、安全かつ効率的な除雪作業の実施に向けた打合せを行っております。

市の直営作業班をはじめ、市内業者12社を含む個人・団体への委託体制により、降雪時の円滑な歩行と車両通行の確保に努めて参ります。

○ プレミアムモバイル商品券事業について

物価高騰の影響を受け続けている市民の消費を下支えするとともに、市内経済の活性化を目的とした「にかほ市プレミアムモバイル商品券」の利用が11月4日から開始されました。

1人最大3万円分の購入に対して3万9千円が付与される本事業には、1,542人の市民の皆様から43,620口の申込みをいただきました。最大発行数4万4千口（総額5,720万円）対し、申込率は99.1%となっております。

商品券の利用期限は来年1月31日までとしており、今後は市民の消費傾向の把握などにも活用して参ります。

○ 市内の経済状況について

7月から9月までの本市景況調査では、依頼した68社のうち53%にあたる36社から回答がありました。

全体の傾向としては、前年同期と比較して「好転」11社、「横ばい」11社、「悪化」14社となっております。

業種別に見ると、卸売・小売・サービス業において、前年同期比および前期比のD I値が、前回調査に引き続きマイナスとなっております。

一方、製造業では、前年同期比のD I値はマイナスとなっているものの、前期比ではプラス20.0%と改善が見られ、今後の見通しも13.3%と回復の兆しが見えております。

○ にかほ市外国人技能実習生交流事業について

9月27日、市内製造業で就労する外国人技能実習生の交流事業として、酒田市の「いろは蔵パーク」や輸入食品を扱う小売店などを巡るバスツアーを行いました。また、遊佐町総合運動公園では、フリーキック大会やフリースロー大会を開催し、実習生たちは優勝を目指し楽しんでいました。

ツアーには4事業所から16人が参加し、就労先や母国が異なる実習生同士が、記念撮影や日本語での会話を通して交流を深める貴重な機会となりました。

○ 若者の地元定着の促進について

11月6日、由利地域振興局やハローワーク等との共催により、市内の中学2

年生を対象に「中学生と管内企業のふれあいPR事業」を開催しました。

会場となった仁賀保中学校には、製造業、建設業、サービス業をはじめとする様々な業種から22事業者がブースを設け、自社製品や事業内容を紹介するとともに、企業の魅力や特色をPRしました。

将来の仕事について思い描き始める中学2年生が、企業と直接ふれあうことにより、地元企業への関心や理解を深めてもらう貴重な機会となりました。

今後も、若者にとって、地元就職が有力な選択肢となるよう意識醸成を図るとともに、若年就業者の職場定着を促進して参ります。

○ 秋田キャラバンミュージックフェス 2026 の開催について

横手市出身のシンガーソングライター高橋優さんが企画する野外音楽イベント「秋田キャラバンミュージックフェス 2026」が、来年9月26・27日の両日、象潟グラウンドを会場に開催されます。

このイベントは、県内13市を巡回するキャラバン型の野外音楽フェスで、本市は8番目の開催地となります。

過去の開催実績では、2日間で約16,000人の来場者を記録しており、本市の魅力伝える絶好の機会と捉えております。

○ にかほ市スポレク祭について

10月13日スポーツの日に、「にかほ市スポレク祭」を開催しました。

今年度は新たに、ローイングの陸上トレーニング、スケートボード初心者体験、車いすの方も楽しめる卓球バレー、プロスポーツチームによるストレッチやラグビー体験など、多彩なプログラムを加え、総勢734人が参加し、さわやかな汗を流しました。

今後も各種団体と連携しながら、誰もがスポーツを楽しめる機会を提供して参ります。